

医薬品の安全性情報に関する 医療従事者のニーズ把握調査 (医師、薬剤師) —考察—

2026年1月20日

日本製薬工業協会（製薬協）

医薬品評価委員会 ファーマコビジランス部会（PV部会）

TF1（Dxを活用したリスクコミュニケーション）



Executive Summary

- ✓ 医師・薬剤師ともに、安全性情報へのニーズは高く、診療時間帯によって重視する情報源が異なった。
- ✓ 医師は検索エンジンを活用する傾向が強く、薬剤師は特定の公式サイト（PMDA、製薬会社）に直接アクセスする傾向があった。
- ✓ 電子カルテのDrug Information(以下、DI) システム、PMDA Webサイト、医療系サイトなど、主要な電子媒体にはそれぞれ特長と課題があった。
- ✓ 職種、状況、職場環境などによって、医療従事者が安全性情報を入手するツールは異なるため、必要な情報を確実に届けるためには、受け手の状況を考慮してツールを選択することが求められる。
- ✓ 将来的には、各プラットフォームの整備を行い、ニーズに応じた安全性情報提供が望まれる。

目次

- **本調査より特筆すべき結果とその考察について**
 1. 医療従事者の安全性情報入手時に重視する基準と情報源の関係
 2. 医師と薬剤師の“情報探索行動”から読み解く 製薬会社Webサイトへの期待
- **今後に向けて**
- **作成担当／編集**

本調査より特筆すべき結果とその考察について

2023年5月実施の「医薬品の安全性情報に関する医療従事者のニーズ把握調査（医師、薬剤師）（以下、本調査）」を踏まえて、以下の2点についてさらに考察することとした。

本調査結果から得られた重要な知見

- ✓ 医師及び薬剤師共に、安全性情報に関するニーズは高かった。
- ✓ 医師及び薬剤師共に、安全性情報入手時に重視する基準と情報源は診療時間中・外で異なった。
- ✓ 医師と薬剤師では、インターネットでの安全性情報入手時の最初のアクションに相違があった。

考察ポイント

- ✓ 医療従事者の安全性情報入手時に重視する基準と情報源の関係ーポジショニングマップ
- ✓ 医師と薬剤師の“情報探索行動”から読み解く 製薬会社Webサイトへの期待

医療従事者の安全性情報入手時に重視する基準と情報源の関係

医療従事者の安全性情報入手時に重視する観点と情報源について以下の点が判明した。

1. 医師及び薬剤師共に、診療時間中・外で、安全性情報入手時に選択される情報源が異なった。(ページ6)
2. 診療時間中と外で大きく異なっていた安全性情報入手の基準は、「アクセスしやすい」であった。(ページ7,8)



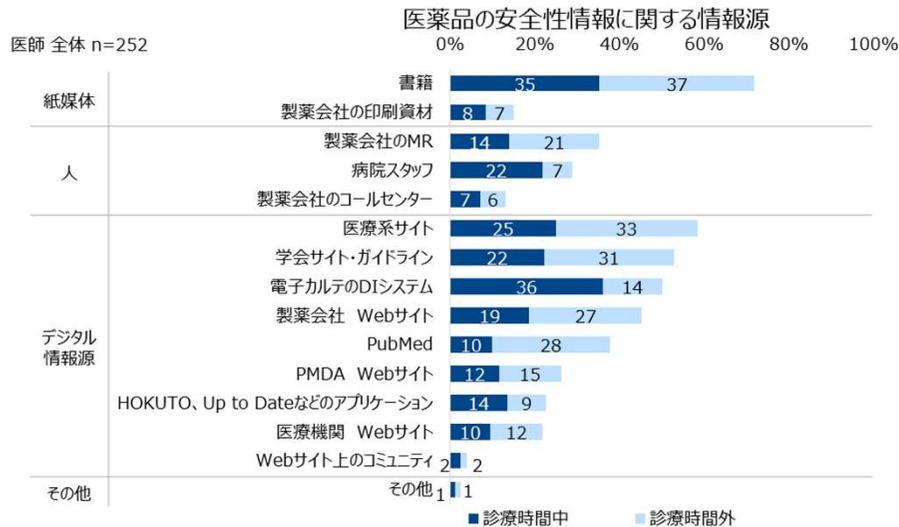
ポジショニングマップとして整理をした。

情報源の「アクセスしやすさ」と「タイミング」—選ばれる理由が見える化！ (ページ9-23)

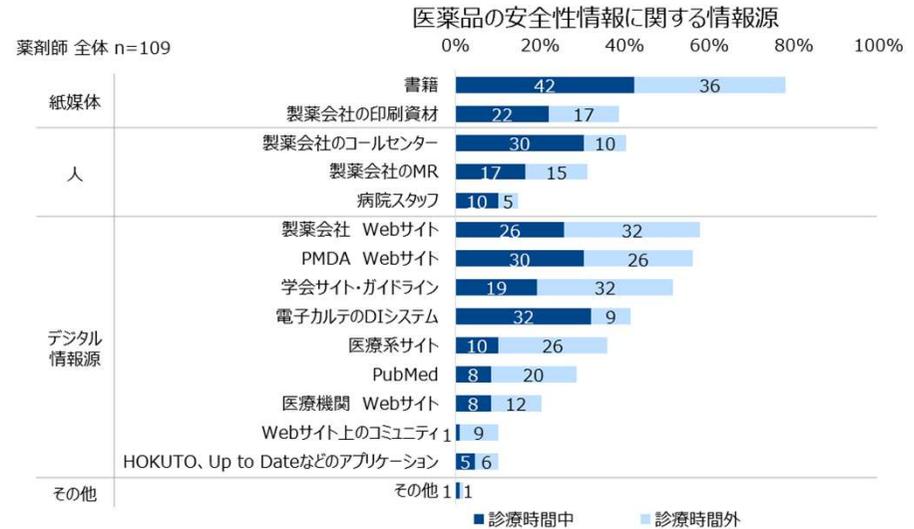
医療従事者の安全性情報入手時に重視する観点と情報源の関係

医師・薬剤師ともに診療時間中は電子カルテのDIシステムが情報源となっている割合が高かった。
製薬会社Webサイトは**医師**は診療時間外の利用のほうが多く、**薬剤師**は診療時間中の利用が多いなど、**診療時間中・外で傾向が異なる情報源が存在した。**

医師

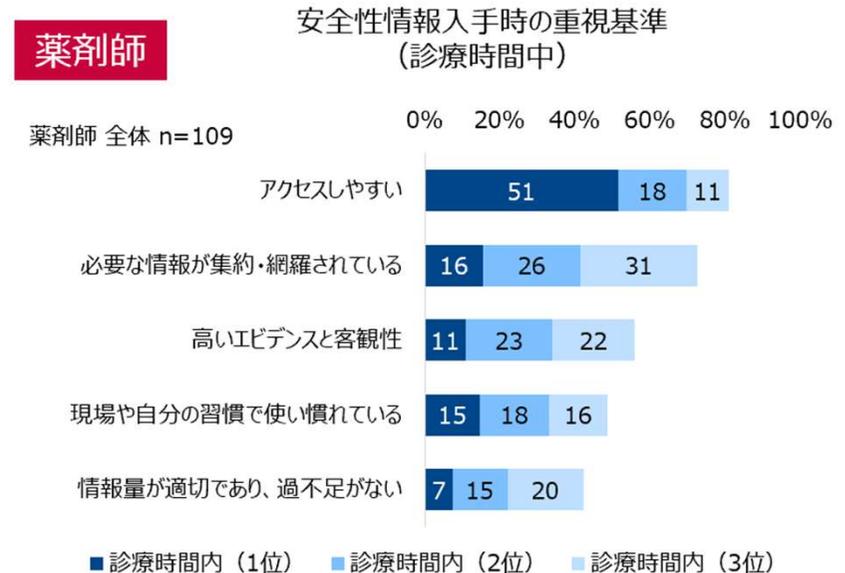
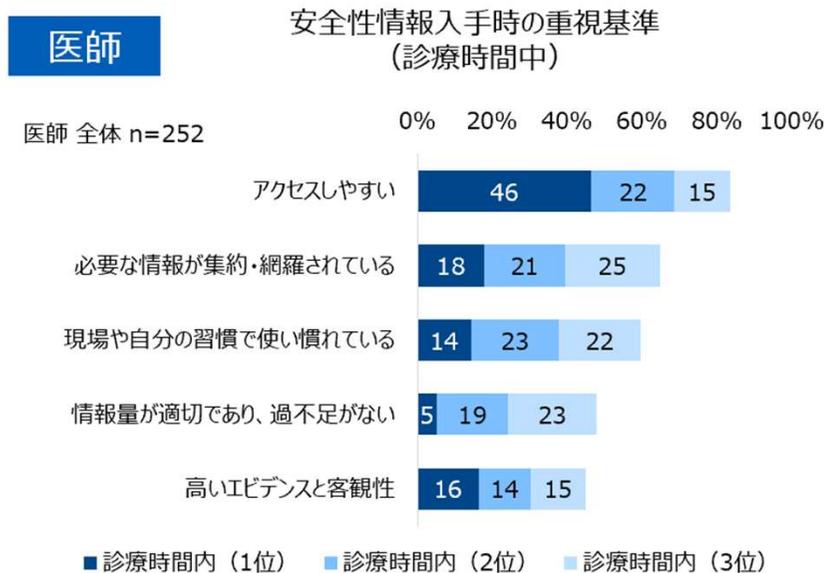


薬剤師



医療従事者の安全性情報入手時に重視する観点と情報源の関係

診療時間中は**医師・薬剤師**ともにアクセスしやすいことが重視され、目の前の患者さんの診察・診療のために、限られた時間の中で情報収集が行われていると考えられた。

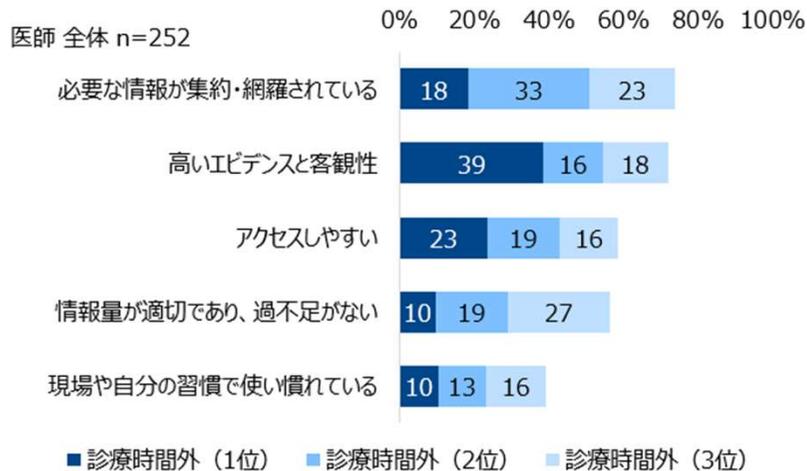


医療従事者の安全性情報入手時に重視する観点と情報源の関係

診療時間外は**医師・薬剤師**ともに必要な情報が集約・網羅されていることが重視され、安全性情報入手の基準のうち診療時間中・外で重視される度合いが大きく異なっていることが考えられた。

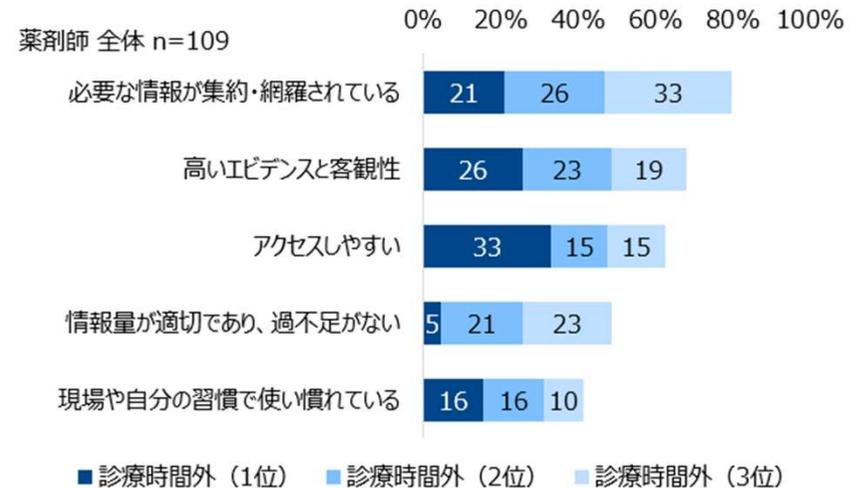
医師

安全性情報入手時の重視基準
(診療時間外)



薬剤師

安全性情報入手時の重視基準
(診療時間外)

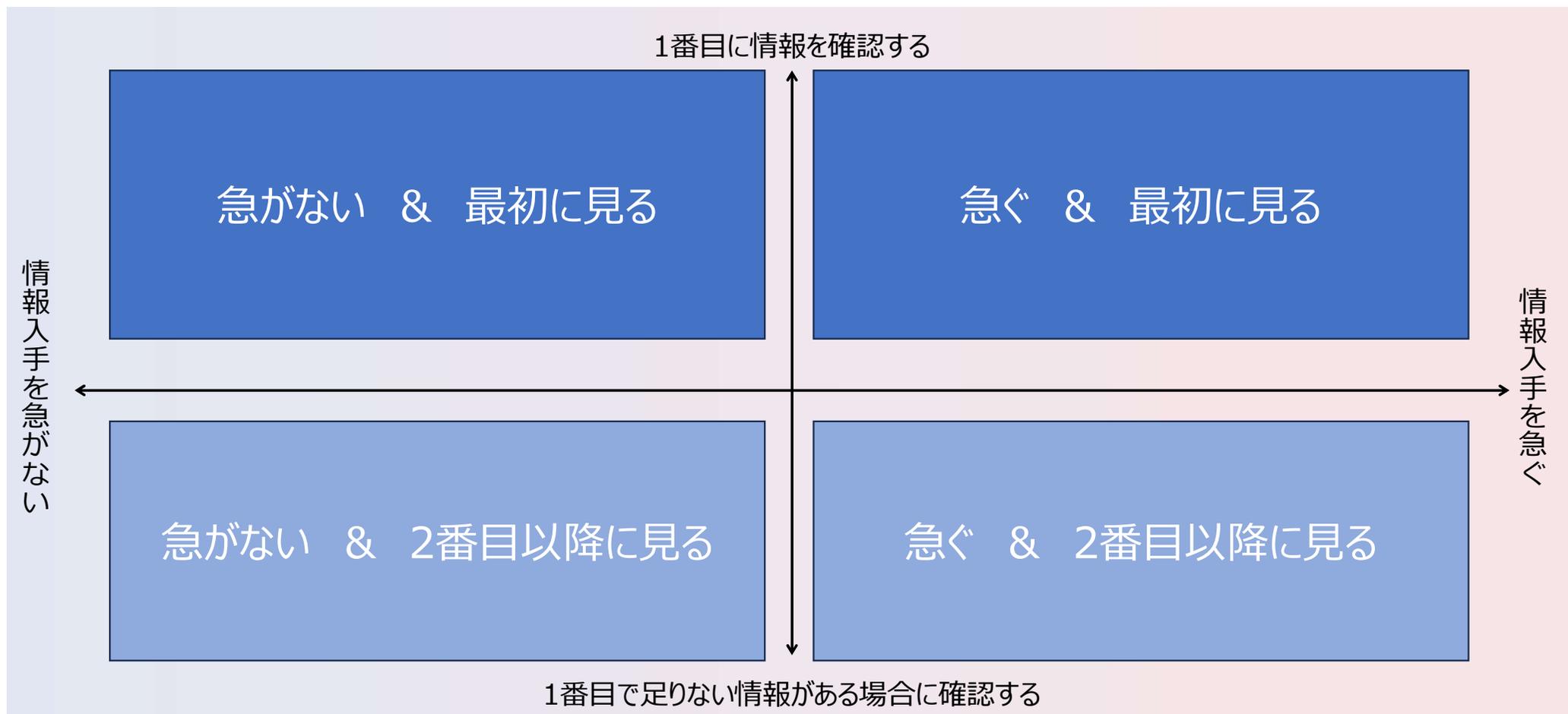


ポジショニングマップとは？

医療従事者は、“いつ・何を頼りに” しているのか？ その行動が一目でわかる！

- 医療従事者の行動やニーズをより具体的に把握するために、影響力の大きい2つの軸を選定した。「アクセスのしやすさ」と「診療時間との関係」という視点から、ページ6～8の情報をもとに各情報源の利用傾向を整理した。
- 具体的には、「最初に確認されやすい情報源かどうか（アクセスのしやすさ）」と、「情報を急いでいるかどうか（診療時間との関係）」の2軸に基づき、各情報源の選択傾向を分析した（ページ13～15参照）。
- バブルの大きさはアクセスのしやすさを示し、マップ内のバブルの色は赤：デジタル情報源、緑：人、青：紙媒体として示した。
- 現時点での各媒体の位置づけを把握することで、安全性情報をどの媒体に掲載すれば、医療従事者に必要な情報を確実に届けることができるかを検討する材料となる。

医療従事者の安全性情報入手時に重視する観点と情報源 ポジショニングマップ



ポジショニングマップから読み取れる医療従事者別の傾向（医師）

- ✓ **1番目に確認される情報源については、情報入手の緊急性に応じて以下の傾向が見られた（図1）。**
 - ✓ 情報入手の緊急性に関わらず、書籍は継続的に利用されていた。
 - ✓ 情報を急ぐ場合は、電子カルテのDIシステムや病院スタッフなど、院内で汎用されているリソースが主に活用されていた。
 - ✓ 情報を急がない場合は、医療系サイト、製薬会社Webサイト、学会サイトなどのデジタル情報源が中心であり、MRも選択肢の一つとなっていた。

- ✓ **1番目に確認した情報源で必要な情報が得られなかった場合、以下の傾向が見られた（図1）。**
 - ✓ 情報入手の緊急性に関わらず、製薬会社の印刷資材やコールセンターに加え、PMDA Webサイト、医療系アプリ、医療機関Webサイトなどのデジタル情報源が選択されていた。
 - ✓ 情報を急がない場合は、PubMedが多く選択される傾向があった。

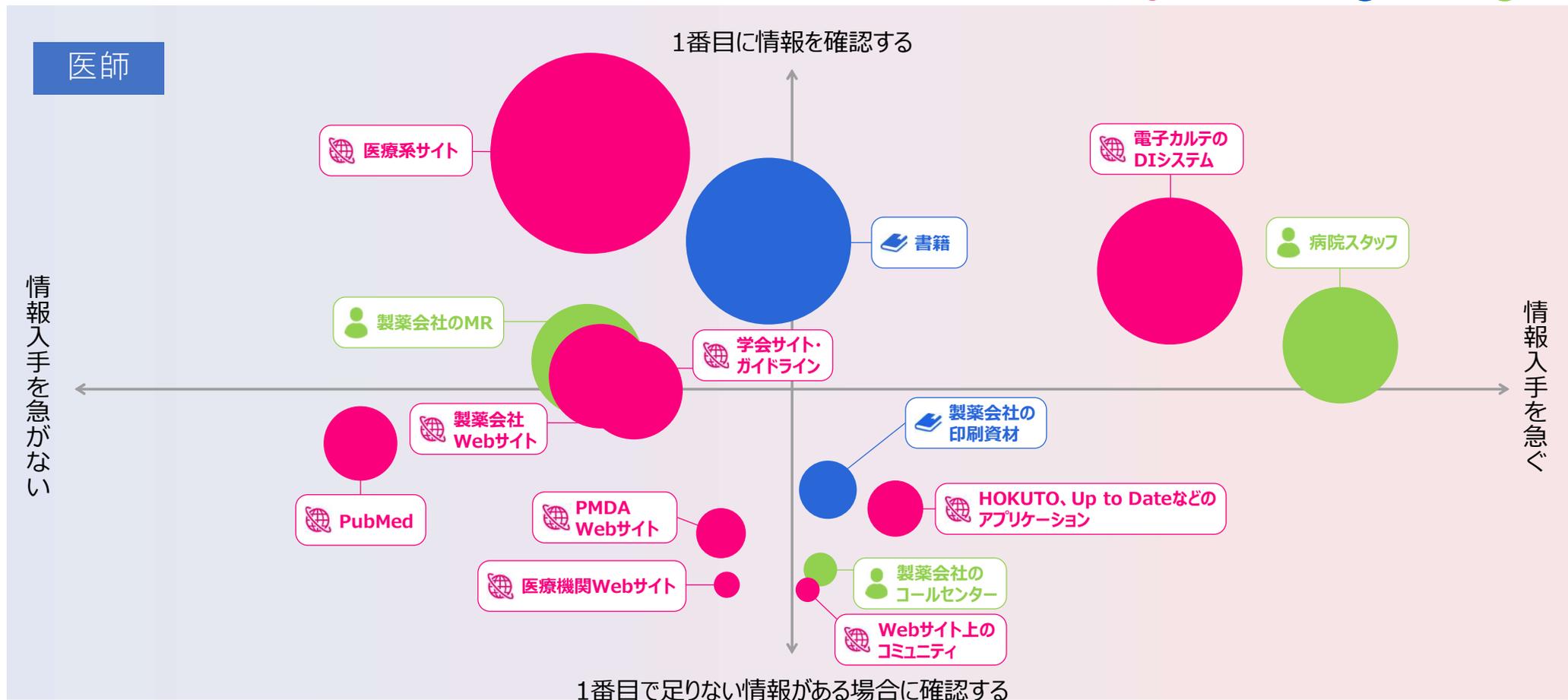
ポジショニングマップから読み取れる医療従事者別の傾向（薬剤師）

- ✓ **1番目に確認される情報源については、情報入手の緊急性に応じて以下の傾向が見られた（図2,3）。**
 - ✓ **情報入手の緊急性に関わらず**、病院薬剤師は書籍および製薬会社Webサイトを選択していた。
 - ✓ **情報を急ぐ場合は**、病院薬剤師は電子カルテのDIシステムや病院スタッフなど院内リソースを、薬局薬剤師は書籍を主に利用していた。
 - ✓ **情報を急がない場合は**、薬局薬剤師は製薬会社Webサイトや医療系サイトなどのデジタル情報源を選択していた。

- ✓ **1番目に確認した情報源で必要な情報が得られなかった場合、以下の傾向が見られた（図2,3）。**
 - ✓ **情報入手の緊急性に関わらず**、病院薬剤師はMRおよび医療系アプリを、薬局薬剤師はMRを選択していた。
 - ✓ **情報を急ぐ場合は**、病院薬剤師は製薬会社の印刷資材を選択していた。
 - ✓ **情報を急がない場合は**、病院薬剤師は医療系サイト、学会サイト、PubMedを、薬局薬剤師はWebコミュニティや医療機関Webサイトを選択していた。

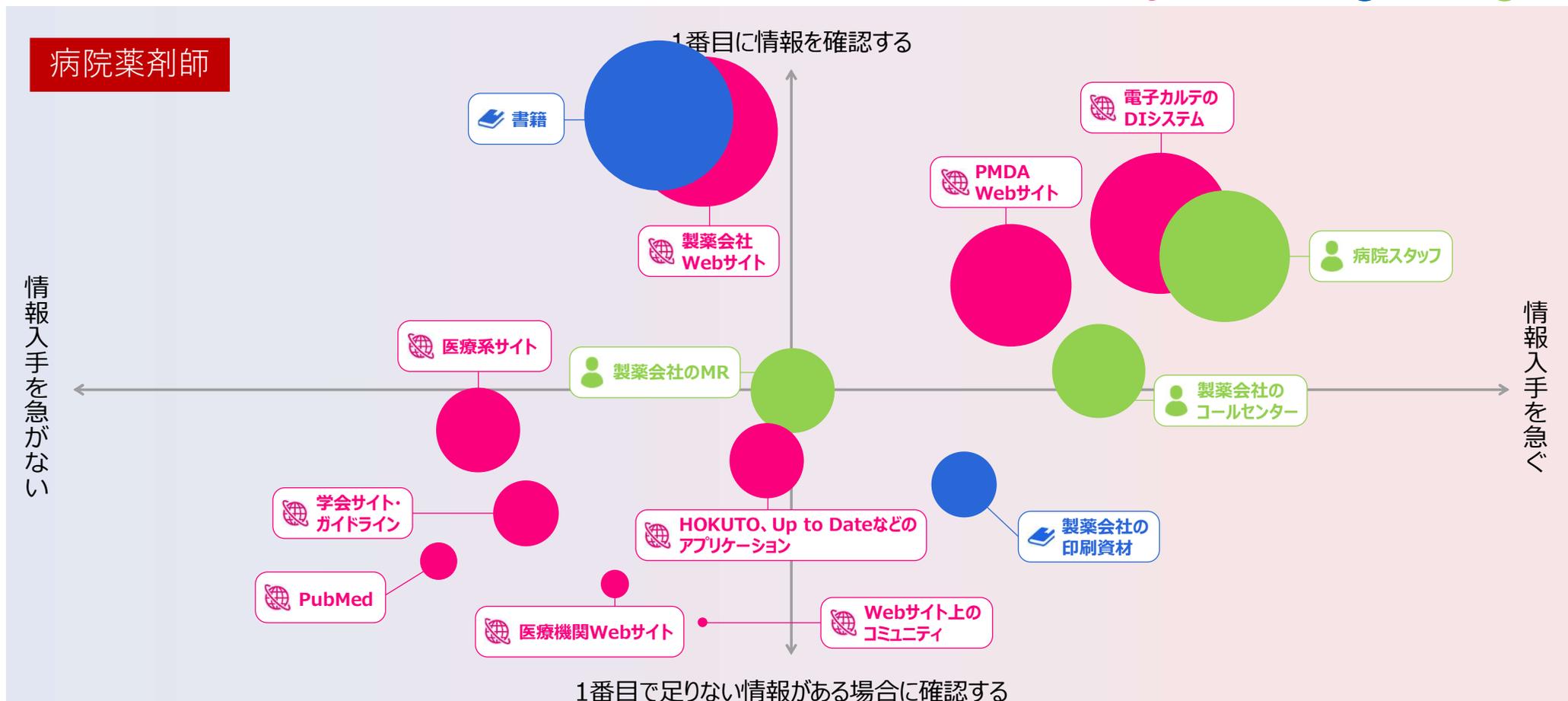
ポジショニングマップ[®] 医師 図1

● デジタル情報源 ● 紙媒体 ● 人

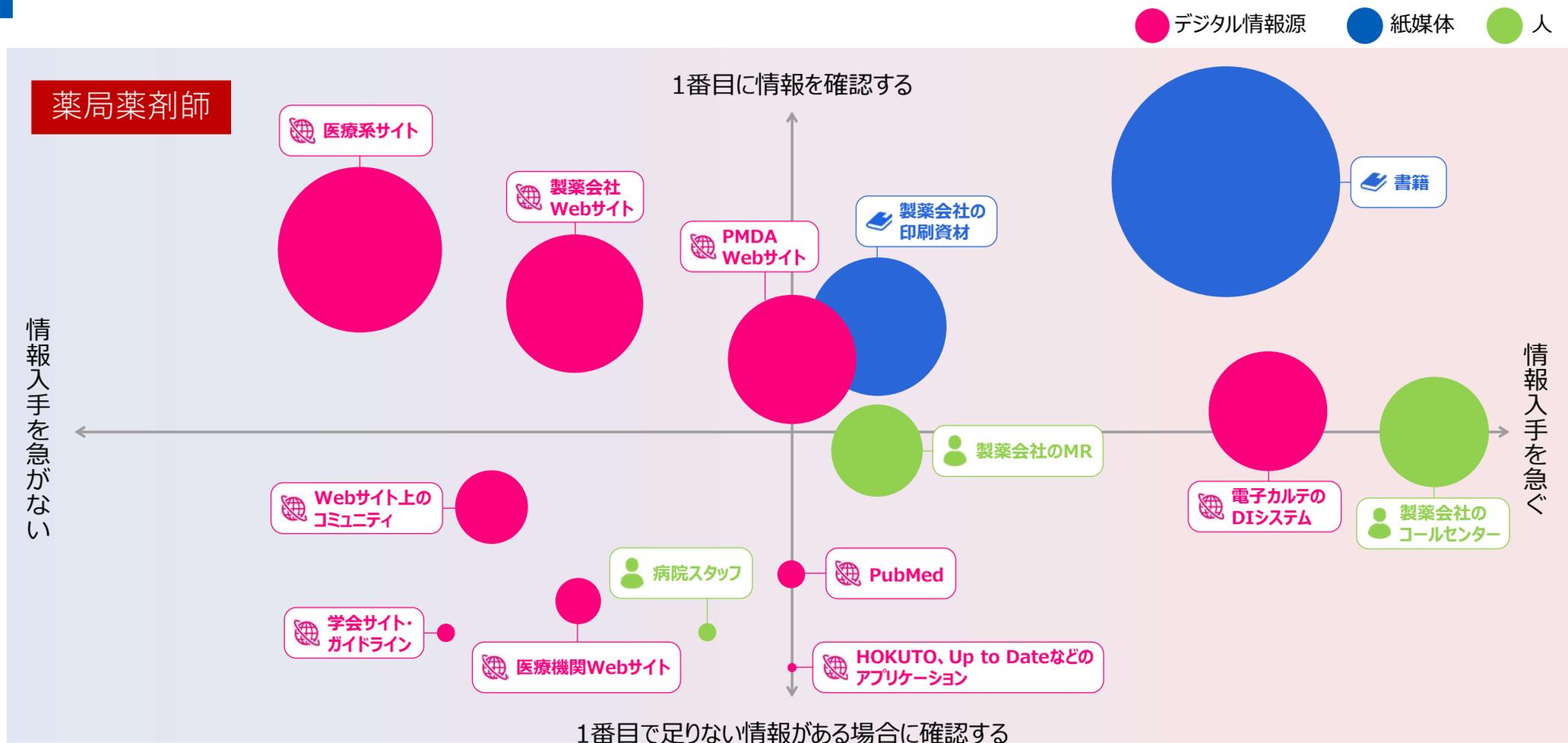


ポジショニングマップ^o 病院薬剤師 図2

● デジタル情報源 ● 紙媒体 ● 人



ポジショニングマップ^o 薬局薬剤師 図3



情報源毎の考察 まとめ

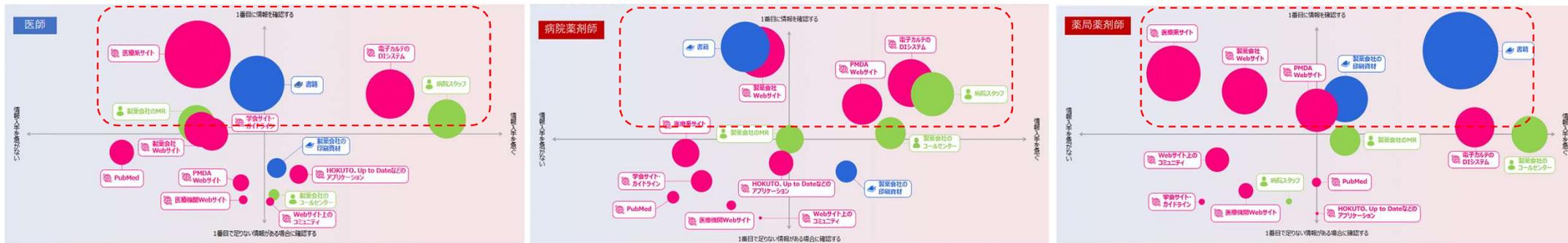
代表的媒体の特長を以下にまとめた（ページ17-22）。なお、製薬会社Webサイトについては、より詳細に考察した（ページ23-29）。

媒体	特長
書籍	医師及び病院薬剤師ともに、緊急性を問わず上位（1,2番目）で選択されている。
製薬会社の印刷資材	薬局薬剤師では、緊急性を問わず優先的に選択されている。
病院スタッフ	医師及び病院薬剤師では、情報入手を急ぐ場合に選択されている。
電子カルテのDIシステム	医師及び病院薬剤師では、情報入手を急ぐ場合に、書籍に並ぶ情報源として選択されるデジタル情報源の代表例である。
PMDA Webサイト	安全性情報が網羅された代表的な包括的プラットフォームである一方で、医師に比べ薬剤師で選択されている。
医療系サイト	医師や薬局薬剤師では、情報入手を急がない場面で優先的に選択されている。
製薬会社Webサイト	病院薬剤師が緊急性を問わず利用する一方で、医師や薬局薬剤師は、比較的情報入手を急がない場面で選択している。

情報源毎の考察 紙媒体 vs 電子媒体 vs 人（1）

医師および薬剤師が副作用情報を確認する際、最初に参照する情報源としては、専門書や「今日の治療薬」などの書籍が依然として多く選択されていたが、2番目以降に参照されるものは、医療系サイトや電子カルテ内のDIシステムなど、デジタル情報源を選択する傾向が見られた。この傾向は、情報の緊急性に関わらず一貫して認められた。

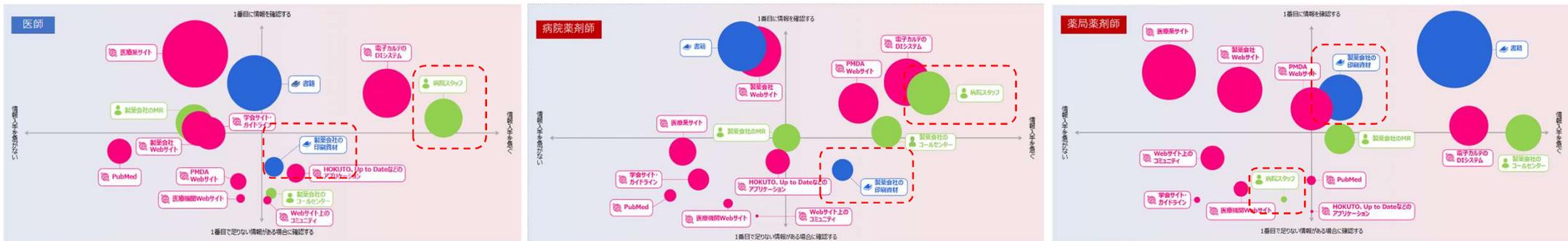
これらの結果は、過去の研究^{1,2)}や医療用医薬品情報の検索サービスの存在³⁾で示されているように、医療従事者によるデジタルチャネルを介した情報収集の進展を裏付けるものである。今回のアンケート結果からも、デジタル情報源の活用が定着している実態が改めて確認された。



情報源毎の考察 紙媒体 vs 電子媒体 vs 人（2）

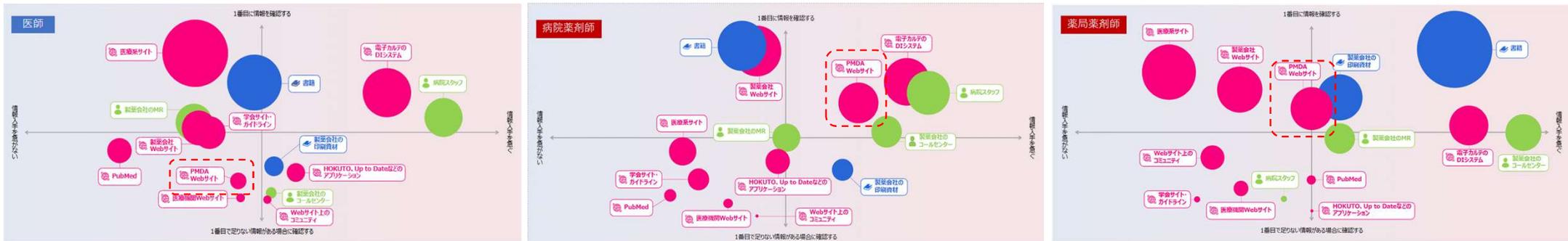
医師および病院薬剤師は、病院スタッフから情報を得る機会が多く、製薬会社が提供する資材の利用は比較的少なかった。一方、薬局薬剤師は、病院スタッフからは少なく、製薬会社資材の利用が多かった。また、3者間で製薬会社MRの位置づけは大きく変わらないものの、医師に比べ、病院および薬局薬剤師は、製薬会社のコールセンターを利用した。

この違いは、職場における相談可能な医療従事者の人数の差に起因すると考えられる。さらに、薬局薬剤師は患者への服薬指導を主な業務としており、2024年6月からはRMP資材を用いた服薬指導が特定薬剤管理指導加算の対象となったこと^{4,5)}から、今後も薬局薬剤師による製薬会社資材の活用は増加する可能性が高い。



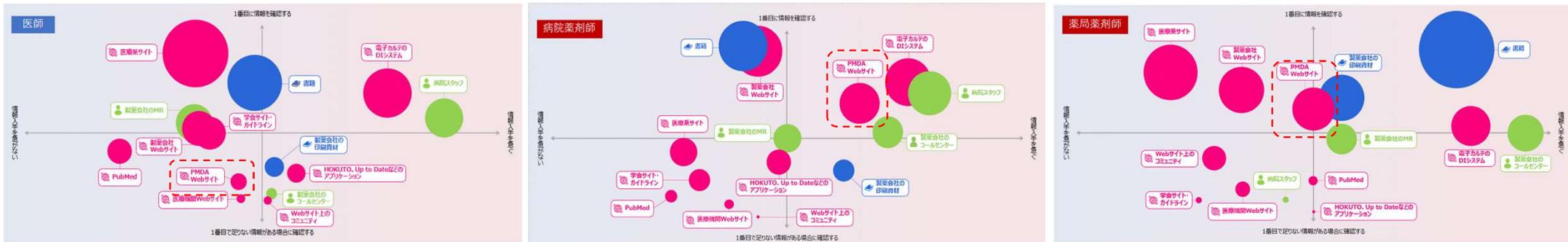
情報源毎の考察【電子媒体】：PMDA Webサイト（1）

PMDA Webサイトの活用状況には、**医師**と**薬剤師**の間で違いが見られた。**病院薬剤師**は情報を急いで入手する場面でPMDA Webサイトを利用する傾向があり、**薬局薬剤師**は情報の緊急性に関わらず利用していた。一方、**医師**は情報入手を急がない場面において、医療系サイト、学会サイト、製薬会社Webサイトに次いでPMDA Webサイトを選択する傾向があった。



情報源毎の考察【電子媒体】：PMDA Webサイト（2）

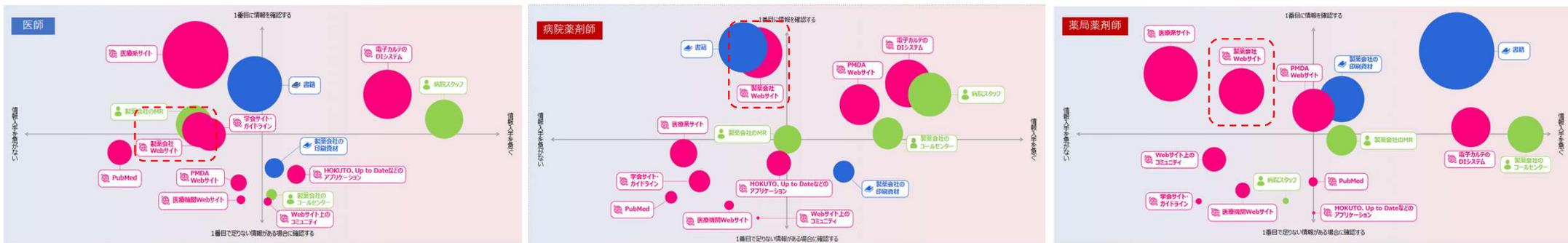
PMDA Webサイトは、治験から市販後までの医療安全情報を網羅する唯一の情報源である⁷⁾。また、**医師**及び**薬剤師**ともに、安全性情報を入手する際に「必要な情報が集約・網羅されている」ことを重視している⁸⁾。このことから、安全性情報の包括的プラットフォームとしてのPMDA Webサイトの存在は重要であると考えられる。しかし、**薬剤師**ではこの基準においてPMDA Webサイトが3番目に選ばれている一方、**医師**では優先順位が低く、すべての医療従事者にとってアクセスしやすく、認識されやすい媒体となるためには、今後の改善が求められる。



情報源毎の考察【電子媒体】：製薬会社Webサイト

製薬会社Webサイトは、**医師**および**薬剤師**の間で比較的優先的に利用される情報源であった。**病院薬剤師**は情報の緊急性に関わらず利用していた一方で、**医師**および**薬局薬剤師**は、情報入手を急がない場面で主に利用していた。また、**医師**および**薬剤師**は「必要な情報が集約・網羅されている」「情報量が適切であり、過不足がない」といった評価基準においても、製薬会社Webサイトを選択していた⁸⁾。

製薬会社Webサイトに関しては、他のデータも参照しながら考察した。（ページ24-29）



医師と薬剤師の“情報探索行動”から読み解く 製薬会社Webサイトへの期待

インターネットによる安全性情報検索傾向のまとめ

	医師	薬剤師
情報収集の初動	まず 検索エンジン で検索する (→ページ26)	特定のサイトに直接アクセス する (→ページ27)
直接アクセス する 特定サイト	主に 医療系サイト を選択 (→ページ26)	製薬会社Webサイト 及び PMDA Webサイト を多く選択 (→ページ27)
検索結果で選ぶ サイトの傾向	製薬会社Webサイト を選択 (→ページ28)	製薬会社Webサイト を選択 (→ページ29)

医師と薬剤師の“情報探索行動”から読み解く 製薬会社Webサイトへの期待

医師は、専門的な医療情報を広く網羅する医療系サイトを直接訪れる傾向が見られた。一方、薬剤師は、製薬会社WebサイトやPMDA Webサイトなど、医薬品に特化した公式情報源を重視する傾向があった。また、医師・薬剤師ともに、検索結果に同じタイトルや概要文が表示された場合、製薬会社Webサイトを最も多く選択していた。

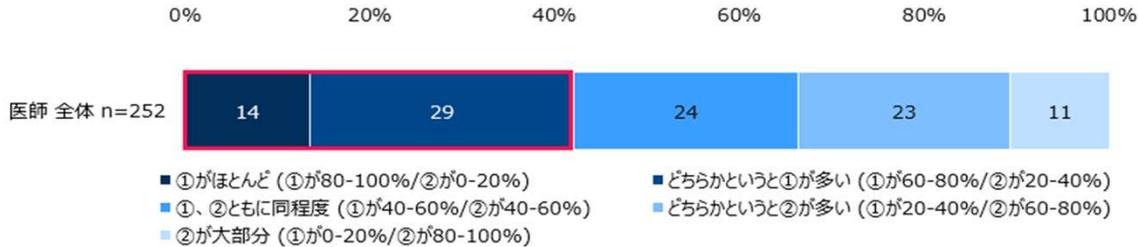
薬剤師は、医薬品情報学や病院薬剤師会によるDI業務の進め方などの教育を受けていることから、情報源の信頼性に対する意識が高いと考えられる。そのため、PMDA Webサイトは、信頼できる情報源として特に重視されていた¹¹⁾。また、製薬会社Webサイトが検索結果で最も選ばれている傾向は、同サイトが正確で信頼性の高い情報を提供していると認識されていることを示唆している。今後も、医療従事者が必要とする情報を確実に届けるために、アクセスのしやすさを意識した継続的な情報提供が求められる。

インターネットによる安全性情報検索方法

医師は、特定のサイトにアクセスするのに比べ、「まずは検索エンジンで検索する」人が43%とやや多かった。特定のサイトにアクセスする場合に最初にアクセスするのは医療系サイトが多かった。

医師

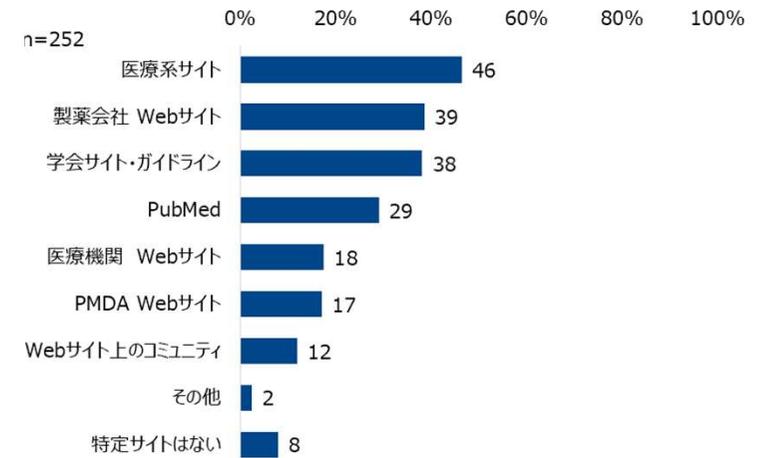
医薬品の安全性情報をインターネットで調べる場合の最初のアクション



<提示資料>

- ①まずは検索エンジンで検索
- ②まずは特定のサイトへアクセス

最初にアクセスするサイト

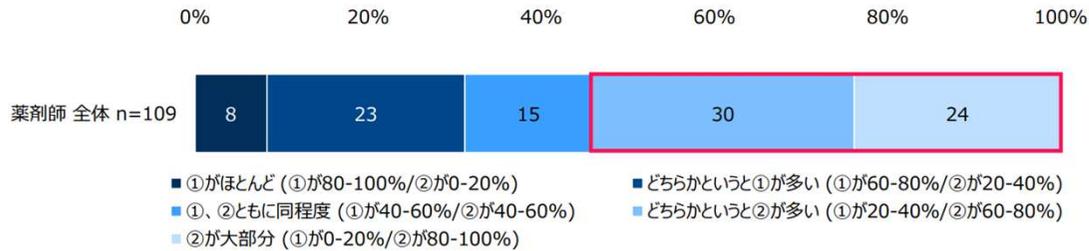


インターネットによる安全性情報検索方法

薬剤師は、検索エンジンで検索するのに比べ、「特定のサイトにアクセスする」人が54%であった。特定のサイトにアクセスする場合に最初にアクセスするのは製薬会社Webサイト、PMDA Webサイトが多かった。

薬剤師

医薬品の安全性情報をインターネットで調べる場合の最初のアクション

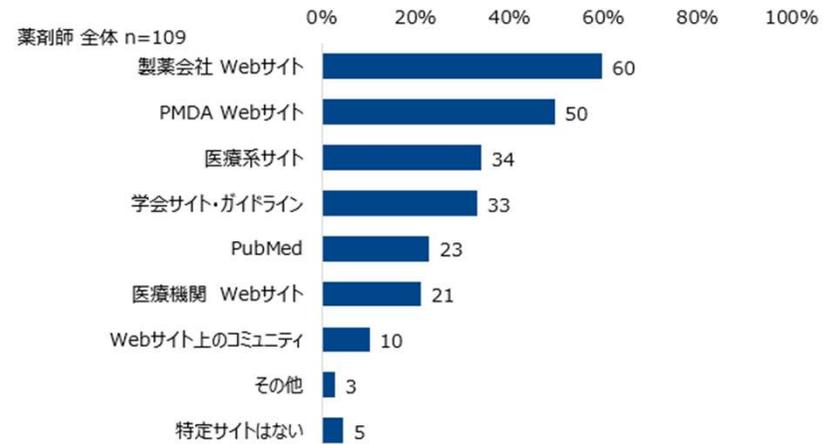


<提示資料>

①まずは検索エンジンで検索

②まずは特定のサイトへアクセス

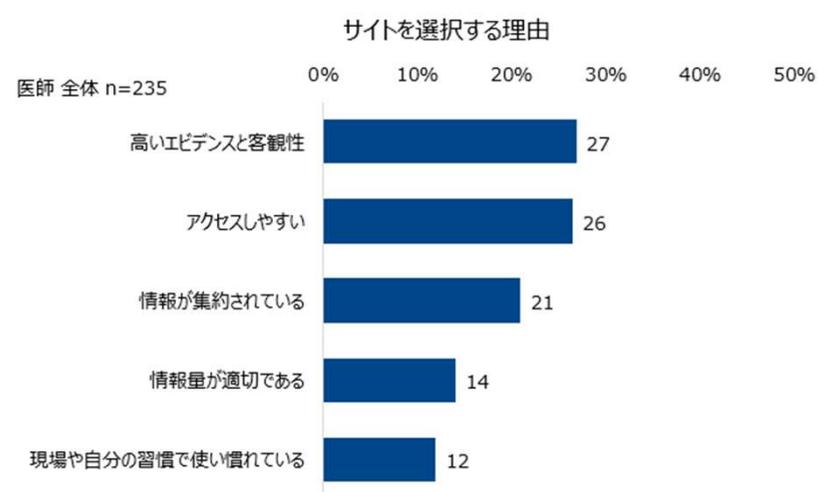
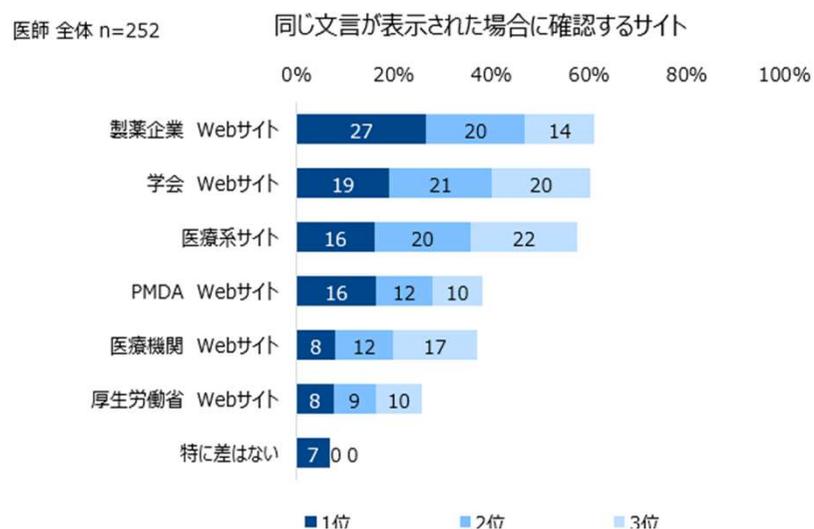
最初にアクセスするサイト



インターネットによる安全性情報検索方法

検索エンジンで安全性情報を検索し、同じタイトルと概要文が表示された場合に選ばれるサイトは、「製薬会社Webサイト」が61%と最も多く、**医師**がその特定のWebサイトを選択する理由は「高いエビデンスと客観性」と「アクセスしやすい」が30%近くを占めた。

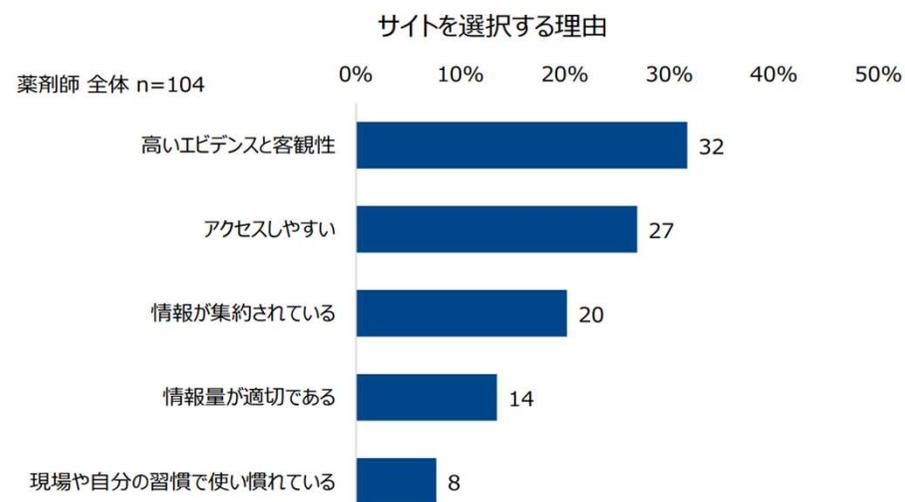
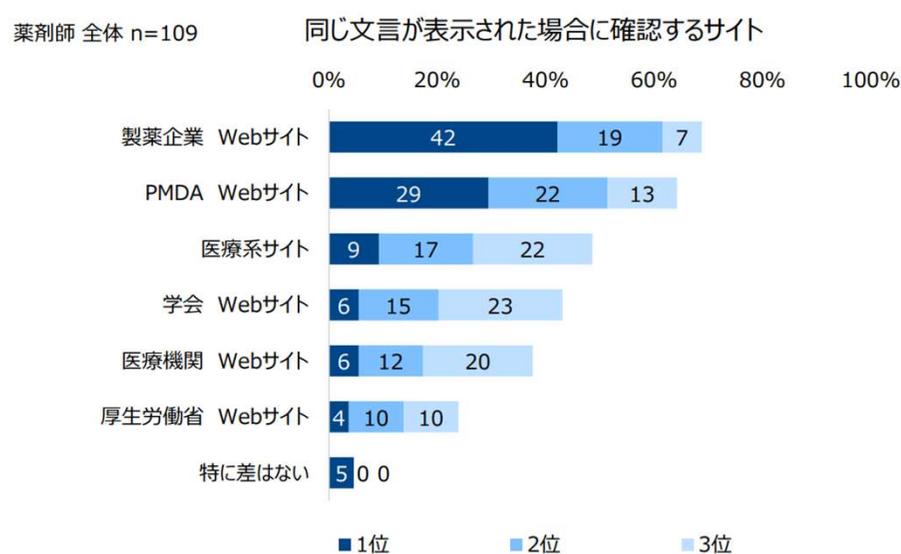
医師



インターネットによる安全性情報検索方法

薬剤師が検索エンジンで安全性情報を検索し、同じタイトルと概要文が表示された場合に選ばれるサイトは、「製薬会社Webサイト」が68%と多かった。**薬剤師**が特定のWebサイトを選択する理由は、「高いエビデンスと客観性」と「アクセスしやすい」が30%近くを占めた。

薬剤師



今後に向けて 電子媒体は安全性情報のプラットフォームになりうるのか

ページ19-22の情報をもとに、多様な情報が集約されている代表的な電子媒体を安全性情報のプラットフォームとした場合の特長と課題を整理した。

媒体	特長	課題
電子カルテのDIシステム	400床以上の病院91.2%と高い普及率 ¹²⁾	<ul style="list-style-type: none"> 200床未満の診療所や中小病院などの普及率48.8%の改善¹²⁾ 基本DI以上の情報を載せる場合のコスト負担減⁶⁾
PMDA Webサイト	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤師で高い利用率⁸⁾ 全薬剤の情報が掲載 治験から市販後までの網羅的な情報 最速で最新情報が反映 	<ul style="list-style-type: none"> アクセスのしやすさの改善 医師の認知度改善⁸⁾
医療系サイト	<ul style="list-style-type: none"> 日本最大級のサイトで、34万の医師、薬剤師、看護師、専門技師など90万人以上の医療従事者（医師含む）が登録⁹⁾ 医師、薬剤師ともに安全性情報入手時に重視するあらゆる基準で選択された情報源⁸⁾ 	<ul style="list-style-type: none"> サイトアクセスへ影響を与える因子の考慮（ポイント、一部有料サイト等） 情報の更新頻度や専門家監修の有無など、ユーザーによる情報信頼性の見極め

今後に向けて まとめ

医療従事者による情報媒体の選択には、医療現場における役割分担が影響している。診断や治療は医師が、薬の提供や管理は薬剤師が担っており、薬剤師は患者への服薬指導に加え、病院薬剤師として医師との緊密な連携も求められる¹³⁾。このような役割の違いにより、医薬品の安全性情報を利用する環境にも差が生じている¹³⁾。

安全性情報を提供する際には、医療従事者それぞれの役割や現場の状況、さらにデジタルチャネルの受容性を踏まえた媒体選択が重要である。まずは、包括的なプラットフォームとして位置づけるサイトと、その課題を明確にし、産官学として整備を進めていく必要がある（ページ30）。

これまで、多くの企業はMRに加え、自社Webサイト、Web講演会、メールなどのデジタルツールを活用し、「マルチチャネル型」で製薬会社が重要と考える情報を提供してきた。しかし近年では、顧客起点による「オムニチャネル型」の情報提供を目指す企業も増えている^{14,15)}。

将来的には、医療従事者を中心に据え、その周囲に複数の情報プラットフォームが連携・配置されるような構造を構築し、ニーズに応じた情報提供を実現することが期待される。医療従事者が必要とする情報を、必要なタイミングで、希望する媒体から取得できる環境を整えることで、より効果的な情報活用が可能となる。

参考資料

1. 事例：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行による医師の医薬品情報収集方法の変化と課題についての調査結果 PwCコンサルティング合同会社（2020年6月22日）（2024年11月8日アクセス） <https://www.pwc.com/jp/ja/press-room/commercial-model-pharmaceutical200622.html>
2. 事例：「医療情報はデジタルで」71% ～コロナ禍で「対面」から一気にシフト 株式会社日経リサーチ（2023年4月24日）（2024年11月8日アクセス） https://service.nikkei-r.co.jp/report/healthcare_id171
3. 事例：PhindMI <https://www.phindmi.com/FAQ/GFAQ01M04.aspx>
4. 厚生労働省保健局医薬課 令和6年度診療報酬改定の概要【調剤】（2024年10月31日アクセス） [001238903.pdf](#)
5. 厚生労働省保険局医薬課長通知 保医発0305第4号 2024年3月5日（2024年10月31日アクセス） [診療報酬の算定方法の一部改正に伴う実施上の留意事項について（厚生労働省保険局医療課長、歯科医療管理官：R6.3.5）](#)
6. 事例：医薬品の適正使用情報を電子カルテを通じて提供、質の高い医療サービスと患者のQOL向上に貢献 富士通株式会社（2021年3月16日）（2024年11月8日アクセス） <https://pr.fujitsu.com/jp/news/2021/03/16.html>
7. 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構（2024年11月8日アクセス） [独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 \(pmda.go.jp\)](#)
8. 医薬品の安全性情報に関する医療従事者のニーズ把握調査（医師、薬剤師）-速報- 2023年5月実施（2025年12月3日アクセス） [医薬品の安全性情報に関する医療従事者のニーズ把握調査（医師、薬剤師）-速報- 2023年5月実施 | 医薬品評価委員会の成果物 一覧 | 日本製薬工業協会](#)
9. 日本最大級の医療従事者専門サイト m3.com（2024年11月25日アクセス） [<日本最大級> 医師向け最新医学・医療情報サイト | m3.com](#)
10. MedPeer（2024年11月25日アクセス） [医師・医学生向け医療情報サイト:ログイン | MedPeer\(メドピア\)](#)
11. 「医薬品情報業務の進め方 2018」 日本病院薬剤師会 <https://www.jshp.or.jp/activity/guideline/20220512-1.html>（2024年11月22日アクセス）

参考資料

12. 第1回標準型電子カルテ検討ワーキンググループ資料 令和5年12月14日 (2024年11月25日アクセス) [001178649.pdf](#)
13. 講演スライド「副作用情報提供: 次世代に向けた情報提供の在り方」医療従事者の医薬品安全性情報入手の現状に関するニーズ把握調査 (2025年7月25日、第16回日本製薬医学会 年次大会) (2025年9月3日アクセス)
https://www.jpma.or.jp/information/evaluation/results/allotment/tv28hf000004pdz-att/PV_202507_JAPHMED1.pdf
14. アステラス製薬のデジタルトランスフォーメーション (2022年1月21日) (2024年11月25日アクセス)
<https://www.astellas.com/content/dam/astellas-com/jp/ja/documents/pdf/digital-transformation-of-astellas-pharma-fy2021-jp.pdf>
15. 【メディア掲載: メディカルノート】 ITヘルスケア学会における希少疾病部門 南波秀洋の講演ダイジェストが掲載されました (2025年12月1日アクセス)
<https://www.pfizer.co.jp/pfizer/company/external-communication/2023-11-15-03>

作成担当／編集

リーダー兼担当副部長 拡大幹事	竹本 信也	（中外製薬株式会社）
	北川 南都子	（日本イーライリリー株式会社）
	篠田 好果	（ノバルティス ファーマ株式会社）

野口 正浩	（アステラス製薬株式会社）	中西 晋平	（中外製薬株式会社）
奥平 可奈子	（エーザイ株式会社）	谷口 圭一	（鳥居薬品株式会社）
富島 さやか	（大塚製薬株式会社）	田中 佐千代	（日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社）
安東 亜希子	（グラクソ・スミスクライン株式会社）	隅谷 真依	（ファイザー株式会社）
原田 郁子	（住友ファーマ株式会社）	海野 一郎	（マルホ株式会社）
水田 藍	（千寿製薬株式会社）	森田 愛子	（Meiji Seikaファルマ株式会社）

令和8年1月発行

編集

日本製薬工業協会 医薬品評価委員会 ファーマコビジランス部会 TF1（DXを活用したリスクコミュニケーション）
〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-3-11（日本橋ライフサイエンスビルディング）

TEL：03-3241-0326

FAX：03-3242-1767